

障害者スポーツで心のバリアフリー！

— 交流及び共同学習を通じた相互理解の推進 —

青森県教育委員会では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会青森大会を契機として、本県の障害のある子どもと障害のない子どもが、授業として一緒に障害者スポーツを行ったり、障害者アスリートの体験談を聞いたりするなど、スポーツを通じた交流及び共同学習の一層の充実に取り組んでいます。

本リーフレットは、共生社会の形成に向けて、交流及び共同学習の意義を広く知っていただくと共に、障害のある子どもと障害のない子どもの相互理解を促進することを目的に作成しました。



「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方をもつ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。そのためには、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要です。各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは以下の3点です。

- ①障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- ②障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。
- ③自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、全ての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

「ユニバーサルデザイン2020 行動計画（内閣官房）」より

交流及び共同学習の意義

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています。そのためには、障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うことが不可欠であり、障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、あるいは、地域社会の人たちとが、ふれ合い、共に活動する機会を設けることが大切です。

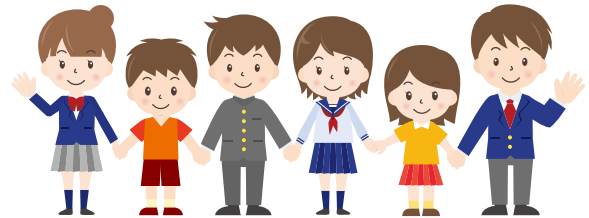
障害のある子どもが幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の子どもと共に活動することは、双方の子どもたちの社会性や豊かな人間性を育成する上で、重要な役割を果たしており、地域や学校、子どもたちの実態に応じて、様々な工夫の下に進められてきています。

学習指導要領においては、障害のある子どもと障害のない子どもが活動を共にする機会を積極的に設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう示されています。

交流及び共同学習の内容

県立特別支援学校では、開設当時から地域の活動や学校行事などにおいて、地域住民や小・中・高等学校等との交流活動が続けられてきており、双方にとって、地域の仲間として共に支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場として成果を挙げてきました。

県教育委員会では、平成25年度から文部科学省委託事業を活用し、交流及び共同学習の理解啓発及び実践研究に努めています。

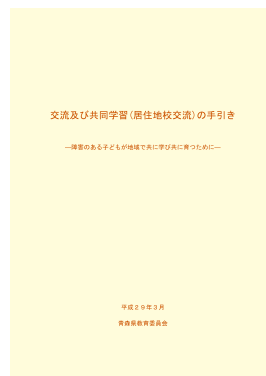
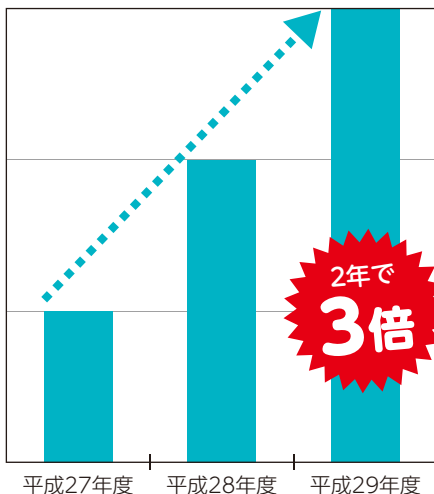


1 子どもの居住地にある学校で実施する交流及び共同学習

特別支援学校に在籍する子どもが、居住地にある学校で実施する交流及び共同学習を「居住地校交流」といいます。県教育委員会では、これまでの取組成果を踏まえ、教育委員会や学校が行う手続きや様式について整理し、例としてまとめた「交流及び共同学習（居住地校交流）の手引き—障害のある子どもが共に学び共に育つために—」、交流及び共同学習の実践事例集「地域で共に学び共に育つ～特別支援学校と小学校の取組～」、保護者向け理解啓発リーフレット「始めませんか？交流及び共同学習」を作成するなど、居住地校交流の推進を図っています。

これらの手引き及びリーフレット等は、県内各校に配布するとともに「青森県特別支援教育情報サイト」に公開しています。

本県の居住地校交流の実施者数



「交流及び共同学習（居住地校交流）の手引き」、
「地域で共に学び共に育つ～特別支援学校と小学校の取組～」、
「始めませんか？交流及び共同学習」は、
青森県特別支援教育情報サイトからダウンロードできます。

http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tokushi_shiryou.html



2 学校間で実施する交流及び共同学習

平成28～29年度外部専門家を活用した交流及び共同学習推進事業の紹介

本県では、全ての県立特別支援学校において、長年にわたり地域の小・中・高等学校等との交流及び共同学習（学校間交流）が行われてきました。

本事業は、障害のある子どもと障害のない子どもが、一緒に障害者アスリート等の体験談を聞いたり直接指導を受けたりしながら共にスポーツをする楽しさを味わうことをとおして、相互理解の推進を図ることを目的としています。

各校の詳細な取組内容については、次ページ以降に紹介しています。

【本事業において主に取り組まれた障害者スポーツ等】

ボッチャ

赤又は青の革製ボールを投げ、白色的球にどれだけ近づけられるかを競う競技で、競技は個人又はチームで行われます。



協力して投球



アスリートから指導を受ける生徒

カローリング

氷上でなく室内でカーリングができるように考案されたニュースポーツです。



作戦会議



スロープを利用した投てき

フライングディスク

どれだけ遠くに投げられるか競う「ディスタンス」と、標的の輪を通過した回数を競う「アキュラシー」の2種目があります。



アキュラシー



ルールの説明をする生徒

その他

子どもの実態に合わせて、障害者スポーツやニュースポーツを実施しています。



ゴールボール



シッティングバレーボール

3 地域の人々との交流及び共同学習

県立特別支援学校では、地域の町内会や老人クラブ等との活動も積極的に行っており、地域の一員としての信頼関係を築いていくことの大切さを学んでいます。



三沢米軍外科戦術部隊とのクリスマス交流会

(八戸盲学校)



ゲームやプレゼント交換など、米軍三沢基地勤務の方々及びその家族と、クリスマスのひとときを一緒に楽しみます。

一日限定カフェ“クローバー”

(黒石養護学校)



黒石市の「松の湯交流館」で、無料でコーヒーなどを提供し、接客の仕方を学びながら地域の方々と交流を深めています。



青森聾学校 (聴覚障害)



近年、本校に在籍する幼児児童生徒数は減少傾向にあり、集団での学習の機会の確保が難しい状況にあります。そのため、集団での学習機会を確保し、社会性や協調性、コミュニケーション能力を育むことを目指し、交流及び共同学習を継続的に実施しています。

小学部では、泉川小学校とボッチャを通じた学校間交流を実施しました。両校の児童同士が話し合って作戦を考える「作戦タイム」や児童が審判となってゲームを進行する活動を取り入れたことで、お互いに自分から言葉をかけ合うなど、自然なやりとりが生まれ、仲間意識が醸成されました。また、デフリンピックアルペンスキー選手の北城大地さんによる講演会には、本校児童生徒及び泉川小学校の児童、保護者、地域住民など550名の参加があり、聴覚障害に関する理解が深まり、自己を見つめるきっかけになったという感想が聞かれました。

学校間交流の相手校

- 青森市立泉川小学校



みんなで打合せ

スポーツを通じた交流の ここが良い！

- ◎勝敗が分かりやすく、楽しさを共有できる。
- 共通の目的に向かうことで、仲間意識が高まる。
- 言葉のかけ合いや協力等、自然なやりとりが生まれる。
- お互いのよさを認め合える。



児童生徒の ここが変わった！

自校

- ◎障害の自己理解が深まった。
- 同学年の友達ができた。

相手校

- ◎障害者への理解が広がった。
- 交流及び共同学習への意欲が高まった。



弘前聾学校 (聴覚障害)



本校は、これまで35年間交流を続けている弘前市立大和沢小学校と、本事業を活用し、カラーリングとアームレスリングを通じた交流を行いました。

青森県アームレスリング連盟に所属する障害のある3名の選手を招いた交流会では、児童は、車椅子を使用している選手と聴覚障害の選手による迫力ある真剣なデモンストレーションの様子に感動していました。また、その後行われた講演では、自身の障害やアームレスリングに取り組むようになった経緯から、その過程で、目標をもつことや夢や希望につながるよう努力することが大事だということ学んだという話がありました。両校の児童からは、これからのいろんなことにチャレンジしたいという感想が聞かれ、障害の有無にかかわらず、一生懸命に取り組むことで同じ舞台で輝けるということを感じていました。

学校間交流の相手校

- 弘前市立大和沢小学校



対戦する児童

スポーツを通じた交流の ここが良い！

- ◎児童同士が、互いに配慮しながらコミュニケーションできる。
- 学年や障害を問わずに楽しめる。
- 通常はあまり取り組まないスポーツが体験できる。



児童生徒の ここが変わった！

自校

- ◎友達に考えや思いを伝えようとする意欲が高まった。

相手校

- ◎特別扱いという意識が少なくなり、みんな一緒と感ずるようになった。





八戸聾学校 (聴覚障害)



本校と柏崎小学校とは、これまで十数年にわたり学校間交流を行っており、行事や社会科見学などで年に数回の交流及び共同学習の機会を設定しています。

本事業のスポーツを通じた交流では、カローリングを実施しましたが、障害の有無にかかわらず、同じ目線、同じ立場で競い合うことができるため、両校の児童が互いのよさに気づき、これまでの障害に対する認識がより深いものへと変わってきています。また、障害者アスリートの講演会では、校舎を同じくする八戸盲学校卒業生のパラリンピック陸上・ゴールボール選手の天摩由貴さんや、本校卒業生のデフリンピック陸上選手の佐々木琢磨さんに講演していただきました。両校の児童生徒は、講師が世界で活躍する姿に、夢や目標に向かって努力し続けることの大切さを実感していました。

学校間交流の相手校

- 八戸市立柏崎小学校



ジェットローラーの投てき

スポーツを通じた交流のここが良い！

- ◎互いの力を認め合うことができる。
- 自然なかかわり合いが増える。
- 同じ目標に向かうことの楽しさを感じられる。
- 障害者スポーツへの興味が広がる。



児童生徒のここが変わった！

自校

- ◎会話の楽しさに気付いた。
- 自信をもって集団の前で話せるようになった。

相手校

- ◎交流への意欲が高まった。
- 障害に対する理解が深まった。



青森第一高等養護学校 (知的障害及び肢体不自由)



本校は、全校生徒49名の知的障害又は肢体不自由がある生徒を対象とする高等部単独校です。本事業の実施に当たっては、本校の肢体不自由教育一部と青森北高等学校スポーツ科学科が平成25年度から始めた交流を土台として、総合的な学習の時間に障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を位置づけて実施しました。

青森北高等学校の生徒が、本校の生徒と一緒に楽しめる種目話し合い、ボッチャ、フライングディスク、風船バレーボールを選定し、ルールの工夫をしました。本校の生徒が、事前に相手校のスポーツ実技発表会の見学や、本校の概要や障害についての出前授業を行ったことにより、円滑に交流することができました。交流後の感想からは、それぞれのよさに気づき、相互理解が深まったことがうかがわれました。



学校間交流の相手校

- 青森県立青森北高等学校



風船バレーボール

スポーツを通じた交流のここが良い！

- ◎チームスポーツをすることで自然に団結感が醸成される。
- チーム内で言葉をかけ合ったり協力したりすることにより相互理解が深まる。



生徒のここが変わった！

自校

- ◎自己理解が促され、社会参加に前向きになった。

相手校

- ◎障害者への意識が前向きになった。
- 障害者スポーツに興味をもった。



青森第二高等養護学校 (知的障害)



本校は、松風塾高等学校との交流及び共同学習を実施して十数年になります。1学年では本校の授業への参加、2学年ではスポーツ交流、3学年では音楽交流を行っています。機会は限られていますが、仲間として互いに認め合い、同学年同士、交流を深めています。スポーツ交流では、準備に時間をかけなくても両校の生徒がすぐに参加できるように、ルールを簡素化しています。昨年度のボッチャを通じた交流では、終始和やかに親交を深めていました。

青森東高等学校とは、陸上部の練習をとおして交流しています。練習を重ねることで、次第に打ち解け、お互いに切磋琢磨する様子がみられました。

また、本校卒業生やパラリンピックメダリストの講演会では、夢を持ち日々努力する姿や失敗してもチャレンジする大切さを共有することができました。

学校間交流の相手校

- 青森県立青森東高等学校
- 松風塾高等学校



円陣を組んで準備運動

スポーツを通じた交流のここが良い！

- ◎楽しむことで自然と笑顔が増える。
- ◎規範意識が芽生える。
- 協力する心につながる。
- 技能向上につながる。
- 体力の向上につながる。
- 相手の事を知り合える。



生徒のここが変わった！



自校

- ◎交流への期待感が高まった。
- 会話を楽しめるようになった。

相手校

- ◎障害理解が深まった。
- 仲間意識の向上につながった。



八戸第一養護学校 (肢体不自由)



本校は長年にわたり、地域の学校と交流及び共同学習を実施しています。交流に当たっては、本校職員がゲストティーチャーとして障害特性や交流内容を事前に伝えたり、ポスター交換をしたりして円滑な実施に努めています。また、本校の児童生徒の実態に応じて補助具を活用したり、ルールを簡単にしたりするなど、全ての児童生徒が障害者スポーツに主体的に参加できるように工夫をしています。

リオパラリンピックのボッチャ銀メダリストや強化選手等を招いての交流活動では、本校と相手校の児童生徒が、実際のゲームをとおして、障害の有無にかかわらず、互いの良さや違いに気付き、自然とかかわりをもつことができていたほか、自分から自信をもって友達とかかわろうとするなど、大きな成果がみられました。



学校間交流の相手校

- 階上町立石鉢小学校
- 八戸市立第一中学校
- 八戸学院光星高等学校



チームで協力して投球

スポーツを通じた交流のここが良い！

- ◎ルールの工夫等で全員が活動に参加できる。
- 活動の中で自然とコミュニケーションが生まれる。
- 楽しさを共有できる。
- 一体感や充実感を味わうことができる。



児童生徒のここが変わった！



自校

- ◎他校生とふれあう喜びの気持ちが増した。
- 自信をもって友達とかかわるようになった。

相手校

- ◎障害者と友達になれるという気持ちをもてた。



浪岡養護学校 (病弱)



本校は、近隣の小・中・高等学校と学校間交流を実施しており、障害者スポーツをとおした交流では、ルールがわかりやすく、補助具を使用することで障害の有無にかかわらず楽しめる種目として、小学部では「ボッチャ」、高等部では「カローリング」を選択しました。

交流会では、ボールの投げ方やジェットローラーの使い方をアドバイスし合ったり、作戦を一緒に考え、励まし合ったりするなど、積極的に協力しながら活動することができました。

車椅子バスケットボールチームAOMORI JOPSのメンバーを迎えての講演会では、健常者から障害者となって乗り越えてきた困難について高い関心をもって聞くことができました。車椅子バスケットボールの体験では、迫力のあるプレーを体感するとともに、ゲームをとおして選手とかかわり合い、障害や障害者スポーツについて理解を深めることができました。

学校間交流の相手校

- 青森市立女鹿沢小学校
- 青森県立浪岡高等学校



外部専門家の指導を受けながらゲーム

スポーツを通じた交流の ここが良い！

- ◎障害の有無にかかわらず、一緒に楽しくゲームができる。
- 協力し合うことで、仲間意識が芽生える。
- 向上心が高まる。
- 達成感が味わえる。



児童生徒の ここが変わった！

自校

- ◎集団において、自主的に行動することができるようになった。

相手校

- ◎障害者と積極的にかかわれるようになった。



むつ養護学校 (知的障害及び肢体不自由)



小・中・高の3学部がある本校は、これまで、むつ市内の小・中学校や高等学校との学校間交流のほか、地域の方々と30年以上にわたって浜奥内海水浴場の海岸清掃活動を実施するなど地域交流の機会を継続的に設けてきました。さらに、平成28年度からは、複数の小学校との居住地校交流に取り組んでおり、地域との密接かつ良好な関係を土台とした交流及び共同学習を進めています。

今年度の交流会では、奥内小学校、近川中学校、本校小・中学部によるスポーツ競技会を実施しました。毎年度の活動をとおしてすでに顔見知りとなっている児童生徒は、バレーボールで名前を呼び合ってパス交換をしたり、チーム全員で励まし合ったりするなど、障害の有無や年齢を意識することなく、自然なコミュニケーションが促進されていました。

学校間交流の相手校

- むつ市立奥内小学校
- むつ市立近川中学校



全員が楽しめるようにルールを工夫

スポーツを通じた交流の ここが良い！

- ◎全員が参加できる。
- ◎お互いを認め合える。
- スポーツを身近に感じる。
- 互いのよさに気付く。
- 仲間意識が生まれる。
- 全員が参加できるように、子どもたちが自分から工夫している。



児童生徒の ここが変わった！

自校

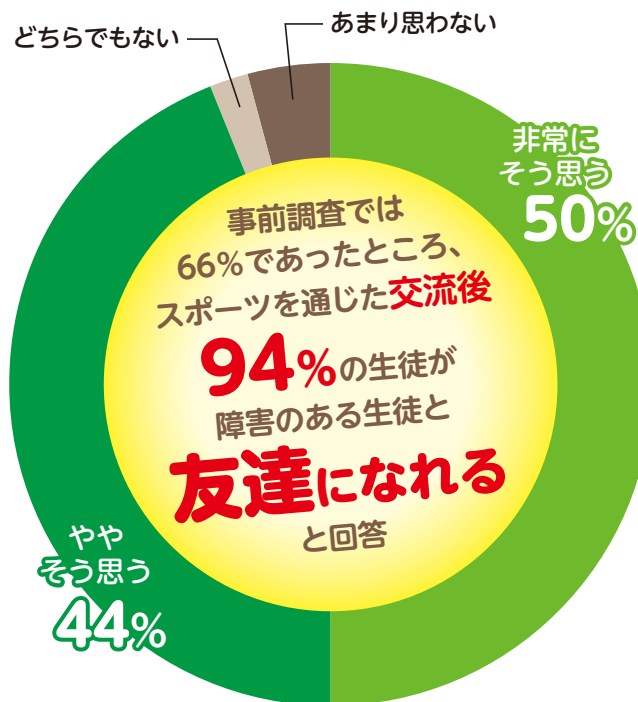
- ◎来年の活動を心待ちにしている。
- スポーツへの関心が高まった。

相手校

- ◎障害のある友達の良さに気づき、より自然に接するようになった。



交流及び共同学習実施後の 通常の学校の児童生徒の感想



※対象校の交流校（中学校）を対象に実施したアンケートの結果より

- 全部自分でちゃんとやり遂げようとしていて、何でもかんでも手助けをするのは悪いことだと思った。
- いつも悲しそうだと思ったら、笑顔で、足がない人でもいつも元気で笑っているんだなと思った。
- 今までは障害のある人から避けていたけど、障害のある人と一緒に体験する楽しさが分かった。
- 障害のある人へのイメージが、障害を気にせずに一生懸命楽しんで生きているというイメージが変わった。
- 障害のある人を見つけたら助けたいと思った。
- 何もできない人たちだと思っていたが、自分できるように頑張っているんだとイメージが変わった。
- 話しづらいイメージだったが、話しやすかった。
- 障害があってもみんなと同じ遊びができた。
- 最初は遠慮していたけれど普通に接することができた。
- その人にできることを探すことがとても大切だと感じるようになった。
- 障害者でもできることや楽しみはいくらでもある。障害者は決して不幸ではない。
- 私たちとほとんど変わらないと思った。



【お問い合わせ先】

青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室

E-mail : E-GAKYO@pref.aomori.lg.jp

TEL : 017-734-9882

青森県特別支援教育情報サイト

http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tokushi_shiryou.html

